

なぜ流水を管理する必要があるのか

洪水や渇水そのものは自然の摂理であり、それらの発生を防ぐことは不可能ですが、発生した洪水や渇水の被害をなるべく軽減し、人々の生活・安全を確保するための管理が必要です。このような管理を総括して「流水管理」と呼びます。

流水管理は、洪水時を想定した「高水管理」、渇水時を想定した「低水管理」、河川環境を正常に保つ「環境管理」の3項目が柱となります。



洪水調節を行なう丸山ダム

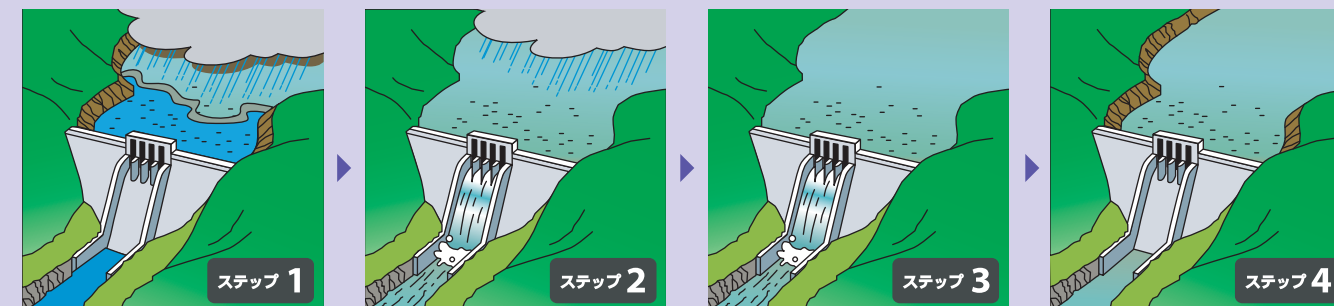
洪水から人々の生命、財産、経済活動を守る「高水管理」

河川の洪水時の大きな水量を、上流のダムにより安全な量まで調節・低減させて下流へ放流する“洪水調節”など、洪水から人々の暮らしを守る作業を「高水管理」と呼びます。更にインターネットの普及に伴い、洪水に関する水位や雨量データを皆さんへ提供するという仕事も行います。

※ 水位や雨量データを提供しているホームページのアドレスは、裏表紙をご覧ください。

洪水から人々を守るためのダムによる洪水調節

たくさん水をダムが一時的に受けとめて、下流が洪水被害にならないように水を流し、水量のバランスを調整しています。



ステップ1 雨で増えた川の水をダムが一時的に貯める。

ステップ2 ダムに貯めて下流に放流する水の量を減らす。

ステップ3 雨が止んでも通常の量になるまで放流。

ステップ4 ダムの水位が通常になったら放流が完了。

洪水時の情報を収集、必要な情報の分析や周知を行います



水防活動を支援します



ダム操作室

渇水から人々の暮らしや経済活動の停滞を防ぐ「低水管理」

渇水時になると木曾三川の水の量が減ってくるため、このような時には上流のダム(牧尾ダム、岩屋ダム、阿木川ダム、味噌川ダム、徳山ダム)に貯めていた水を下流へ補給して、水量をコントロールします。ここでの下流における取水量管理や、ダムからの補給管理といった一連の作業を「低水管理」と呼びます。

河川の流量や取水量の管理、ダムへの補給指示を行ないます



雨量観測所

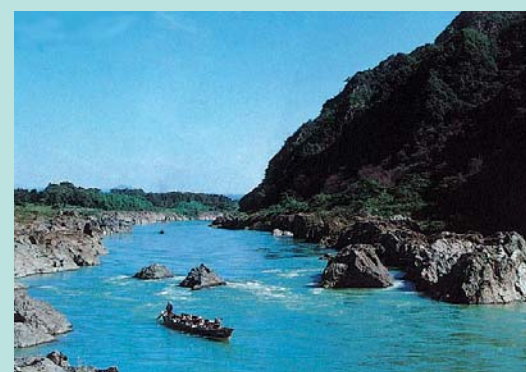


流水管理センター(木曾川上流河川事務所)

今後の渇水予測、節水対策を協議します



緊急水利調整協議会(H17.6.14)



名勝木曾川

豊かな自然環境を保全する「環境管理」

ある程度の流量が維持されないと、そこに棲む魚など河川と密接に関わる生物は生息・生育が困難となります。また、川と人とのふれあい活動にも支障を及ぼします。「環境管理」では環境の保全に必要な水量が確保されているか常に監視を行っています。それは、河川景観というもう一つの価値にも影響します。その他にも、発電ダムの取水により常時の流量が減少する区間に対して、必要な流量の放流を義務づけるための話し合いを発電事業者と進めています。

渇水は河川環境や観光に影響を与えます



平成6年の渇水時の新聞記事より

風光明媚な河川景観



国宝犬山城と一体となった景色